



# SBIレオスひふみ株式会社

(証券コード：165A)

---

2025年3月期 第1四半期  
決算説明資料

## 留意事項

- 当社は2024年4月1日にレオス・キャピタルワークス株式会社（以下「レオス・キャピタルワークス」といいます。）の単独株式移転により、レオス・キャピタルワークスの持株会社（完全親会社）として設立され、東京証券取引所グロース市場に上場しました。
- これにより前年度の実績（2024年3月期実績）は持株会社体制移行前のものであり、具体的には、レオス・キャピタルワークス（旧銘柄コード7330）の決算実績を開示しております。
- 今年度（2025年3月期）から始まります持株会社体制移行後の決算開示につきましては、レオス・キャピタルワークスの「投資信託委託業務・投資顧問業務」とレオス・キャピタルパートナーズ株式会社の「ベンチャーキャピタル業務」を統合した「投資運用事業」として開示いたします（つまりベンチャーキャピタル業務は投資運用事業に含まれることとなります）。
- 何かご不明な点がございましたら、弊社広報IR部までお気軽にお問い合わせください。

# 目次

1

2025年3月期 第1四半期決算レビュー

2

「未上場企業から上場企業までをカバーする投資信託」  
～「ひふみクロスオーバーpro」をリリース

3

当社の特徴と成長機会について  
～中期経営計画

# 目次

## 1 2025年3月期 第1四半期決算レビュー

2 「未上場企業から上場企業までをカバーする投資信託」  
～「ひふみクロスオーバーpro」をリリース

3 当社の特徴と成長機会について  
～中期経営計画

# 2025年3月期 第1四半期決算ダイジェスト<sup>1</sup>

**AUM (運用資産残高<sup>2</sup>)**  
ダイレクト・パートナー・その他の合計

月末残高としては  
過去最高を更新

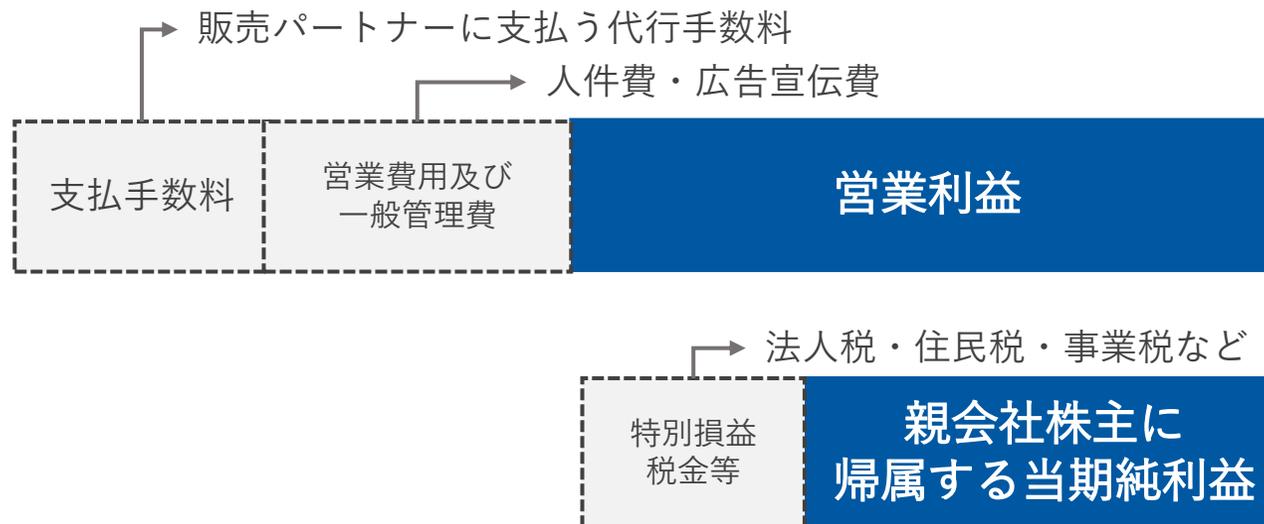
**13,845**億円

前期末比  
**+1.1%**

**営業収益**

**2,848**百万円

前年同期比  
**+11.6%**



**569**百万円

前年同期比  
**+17.7%**

**419**百万円

前年同期比  
**+26.2%**

1. 決算ダイジェストについては決算内容を理解しやすく説明するために各項目のグラフの大きさは実際の数値と一致していません。この点にご注意ください  
2. 当社グループの投資信託委託業務及び投資顧問業務における運用資産残高  
※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご確認ください。

# 販売チャネル別AUM実績

## ダイレクト<sup>1</sup>

(単位：億円)

前期末比 **+1.5%**

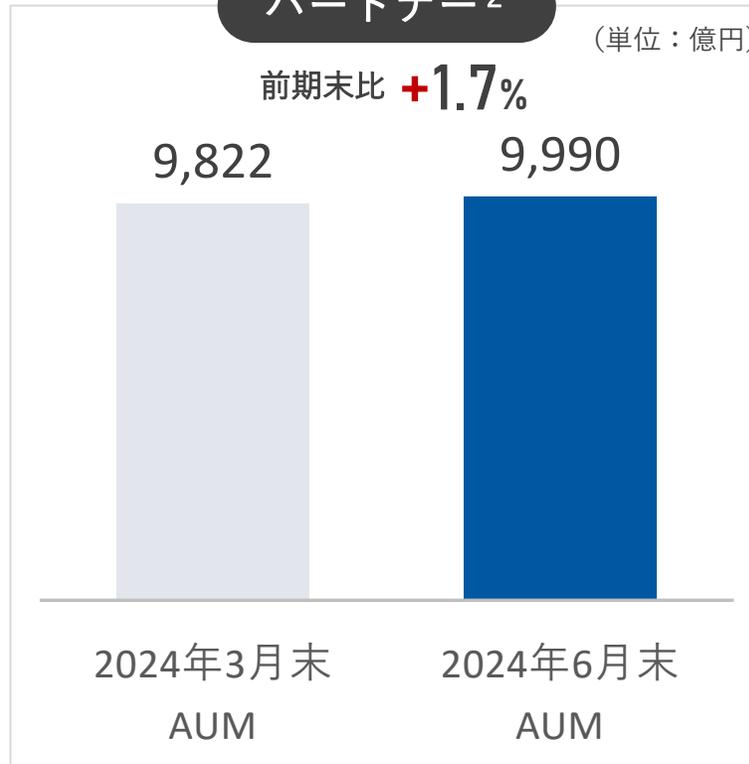


戻り売りに伴う解約も落ち着き、つみたて金額も一定水準で推移したため流入超に転じ、ダイレクトのAUMは増加。

## パートナー<sup>2</sup>

(単位：億円)

前期末比 **+1.7%**

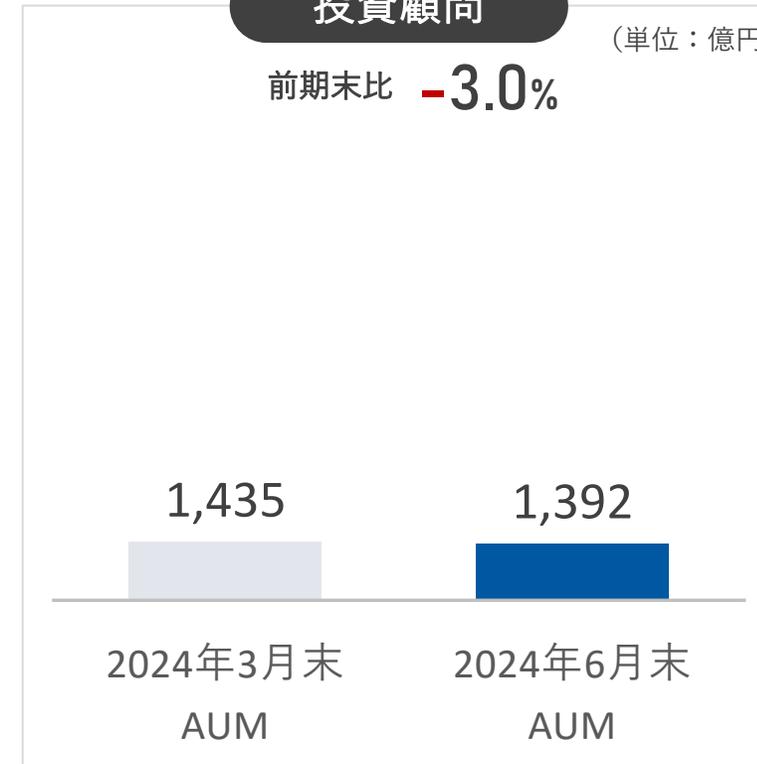


ダイレクトと同様に、戻り売りに伴う解約が落ち着き、新たに設定したひふみマイクロスコープproをはじめとして、一定の設定額も確保することができ、パートナーのAUMは増加。また販売パートナー数は前期末比で3社増加し283社（延べ数<sup>3</sup>）で着地。

## 投資顧問

(単位：億円)

前期末比 **-3.0%**



1. レオス・キャピタルワークスで口座を開設した顧客へ直接販売する公募投信

2. 提携先の銀行・証券会社などを通じて間接販売する公募投信

3. 投資信託それぞれの取扱社数を合計したもの、例えばA社がひふみプラス、まるごとひふみ50、まるごとひふみ100を取り扱っている場合は3社とカウント

※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご確認ください。

# 営業費用及び一般管理費の状況

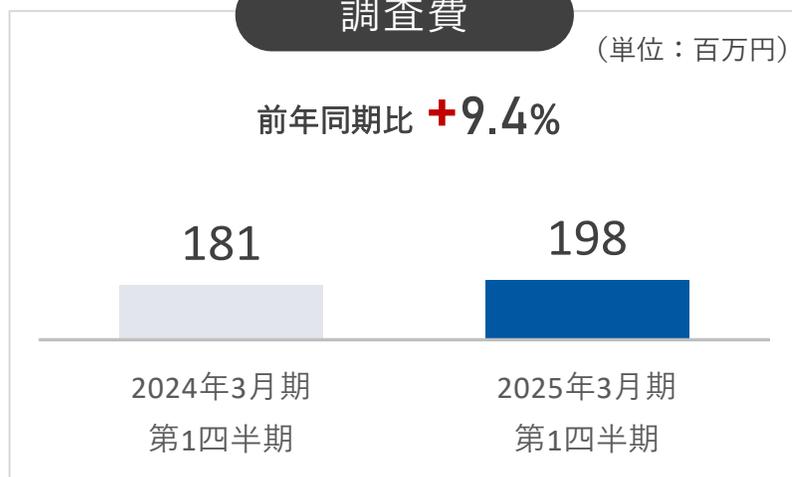
## 営業費用及び一般管理費 合計



## 調査費

(単位：百万円)

前年同期比 +9.4%



## 人件費

(単位：百万円)

前年同期比 +2.2%



## 広告宣伝費

(単位：百万円)

前年同期比 +89.2%



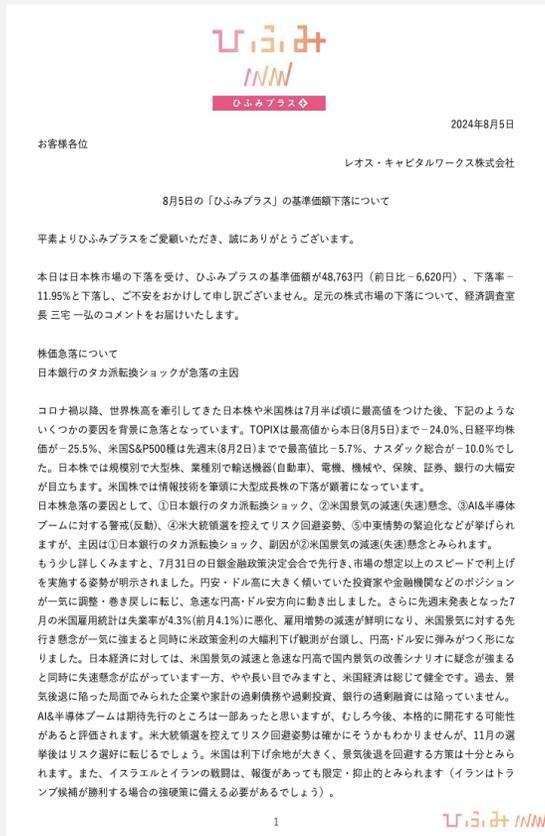
2024年3月期1Qの数値については、レオス・キャピタルワークスの決算数値を記載しております。

※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご確認ください。

# マーケット急変時のお客様対応

## ■ 運用責任者メッセージ・市況コメントを即日発信

- ✓ 8月2日(金) 全ファンドレポート発行
- ✓ 8月5日(月) ファンドレポート発行（ひふみ、ワールド、マイクロ）



## ■ 緊急セミナーおよび全販売会社向けセミナーを開催

- ✓ 8月 6日(火) 緊急セミナー「株式市場下落 今を徹底解説」
- ✓ 8月13日(火) 「全販社向け勉強会（パートナーズミーティング）」

主要国の中で急落際立つ日本株：下落の主因は？

- ✓ **日銀のタカ派転換ショック**  
⇒ 先行き、想定以上のスピードでの利上げ不安  
⇒ 急速な円高・ドル安懸念  
⇒ 国内景気改善(経済の好循環シナリオ)の失速懸念
- ✓ **米国景気の減速(世界景気に暗雲)懸念**
  - AI & 半導体ブームに対する警戒(反動)
  - 米国大統領選挙の接戦と、トランプとハリスの政策相違  
⇒ 選挙日までリスク回避的？
  - 中東情勢の緊迫化(イランvsイスラエルの紛争拡大懸念)

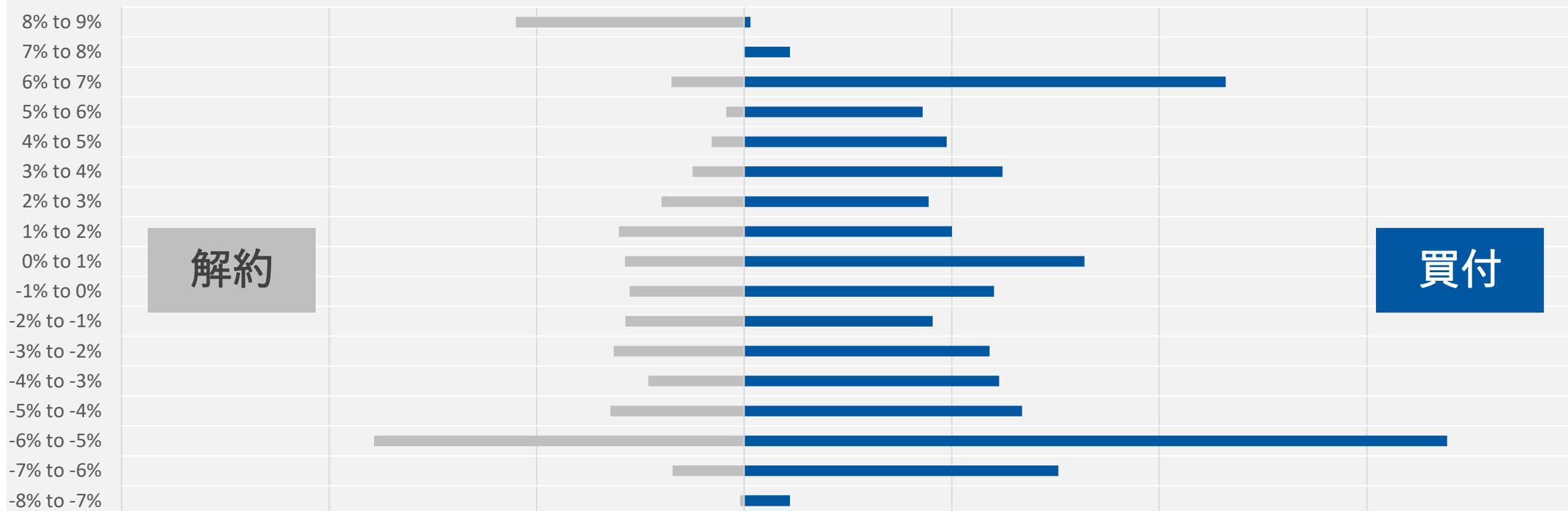
過去2回の失敗

※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご確認ください。 7

# マーケット急変時のお客様動向

- ひふみ投信の基準価額が5%を超える下落が起きた時にスポット買付<sup>1</sup>は平常時よりも増加する

## 買付と解約の平均口座数<sup>2</sup>



1. レオス・キャピタルワークスで口座を開設した顧客（ダイレクトチャネル）の数値

2. 「ひふみ投信」の前日比の騰落率をもとに、過去の直販顧客の申込日をベースとしてスポット買付と解約口座を集計。尚、期間は2008年10月1日～2024年8月2日までを集計

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご確認ください。

# 目次

1 2025年3月期 第1四半期決算レビュー

**2** 「未上場企業から上場企業までをカバーする投資信託」  
～「ひふみクロスオーバーpro」をリリース

3 当社の特徴と成長機会について  
～中期経営計画

# 「未上場企業と上場企業の境界を越えた投資信託」

ひふみ  
INW

ひふみクロスオーバー **pro**

追加型投信／内外／株式



～新しい価値の創造～

未上場企業から上場企業まですべてをカバー

スタートアップ企業の  
成長支援と投資機会の拡大

- 未上場企業への投資を行い、上場後もその株式を継続的に保有することで、企業の成長を支援。
- 日本のスタートアップが上場後に成長が伸び悩む「死の谷」の解消を目指す。

未上場企業への投資機会を広げる  
～未上場投資の民主化～

- 政府の「新しい資本主義実行計画」により、公募投資信託で未上場株を組み入れることが可能に。
- 「プロ投資家」以外の投資家にも幅広く未上場企業への投資機会が拡大。

特長

## 1 主に成長が期待できる未上場企業と上場企業に投資します

- 未上場・上場の境界を越えたクロスオーバー投資を行ないます。
- 実質的に未上場株式等を組み入れる「ひふみクロスオーバーマザーファンド」と、主に日本の成長企業に投資を行なう「ひふみ投信マザーファンド」に投資するファミリーファンド形式で運用を行ないます。未上場株式への投資は当社の関連会社であるレオス・キャピタルパートナーズが運用する「ひふみスタートアップ投資事業有限責任組合」を通じて行ないます。

特長

## 2 足で稼いだ情報で成長企業を発掘します

「定性」「定量」の両面から徹底的な調査・分析を行ない、どのような投資環境でも独自要因で成長を遂げる企業を発掘します。

特長

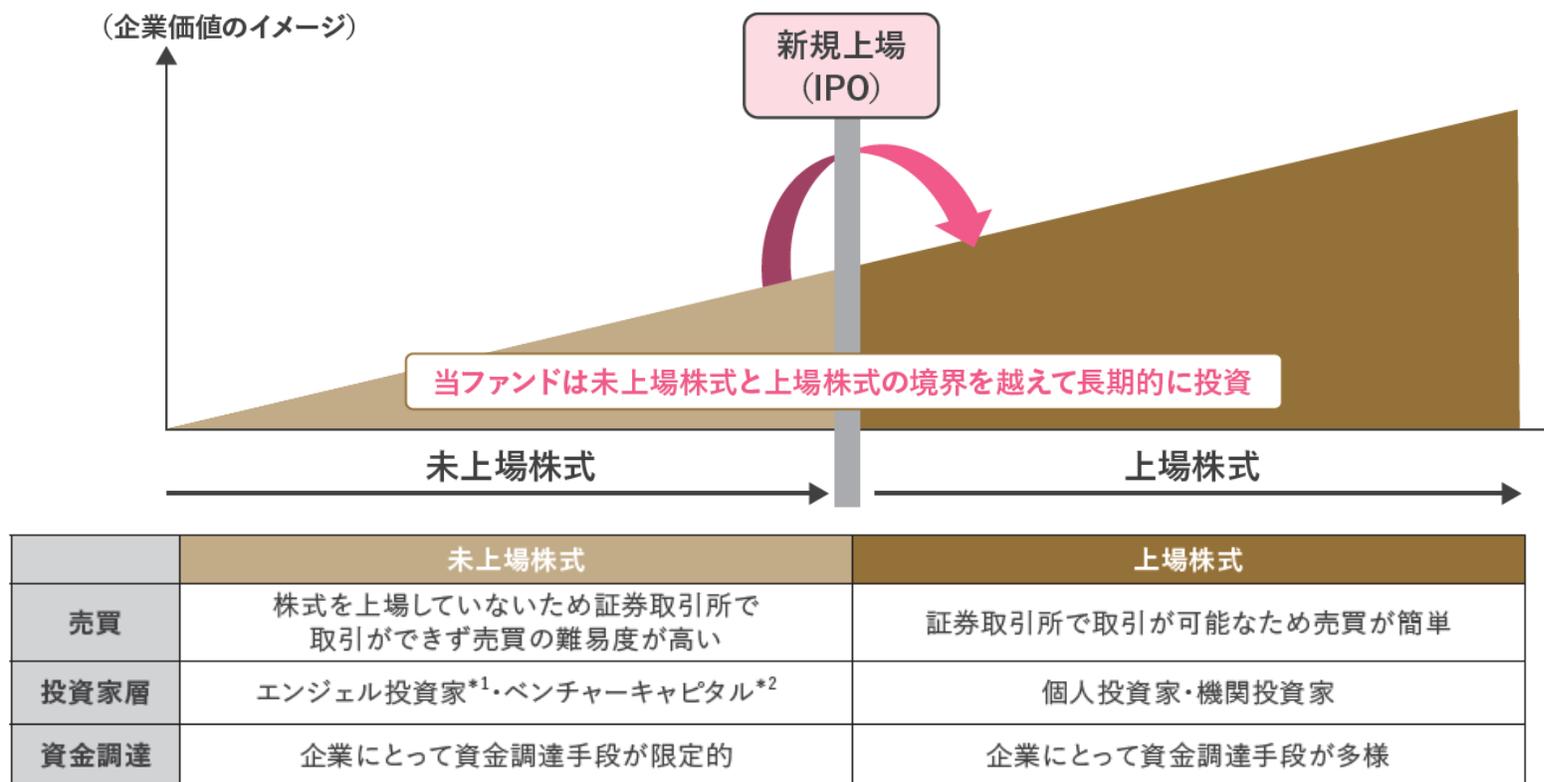
## 3 顔が見える運用

ファンドマネージャーやアナリストの「顔が見える運用」を取り入れ信頼の向上を目指しています。

# 主に成長が期待できる未上場企業と上場企業に投資

## 未上場企業から上場企業まで成長企業に投資

ひふみクロスオーバーproは未上場時から上場後まで、様々な成長ステージの企業に投資します。個人では難しい未上場企業への投資を通じ、成長企業へ上場前から資金を提供することが可能になります。



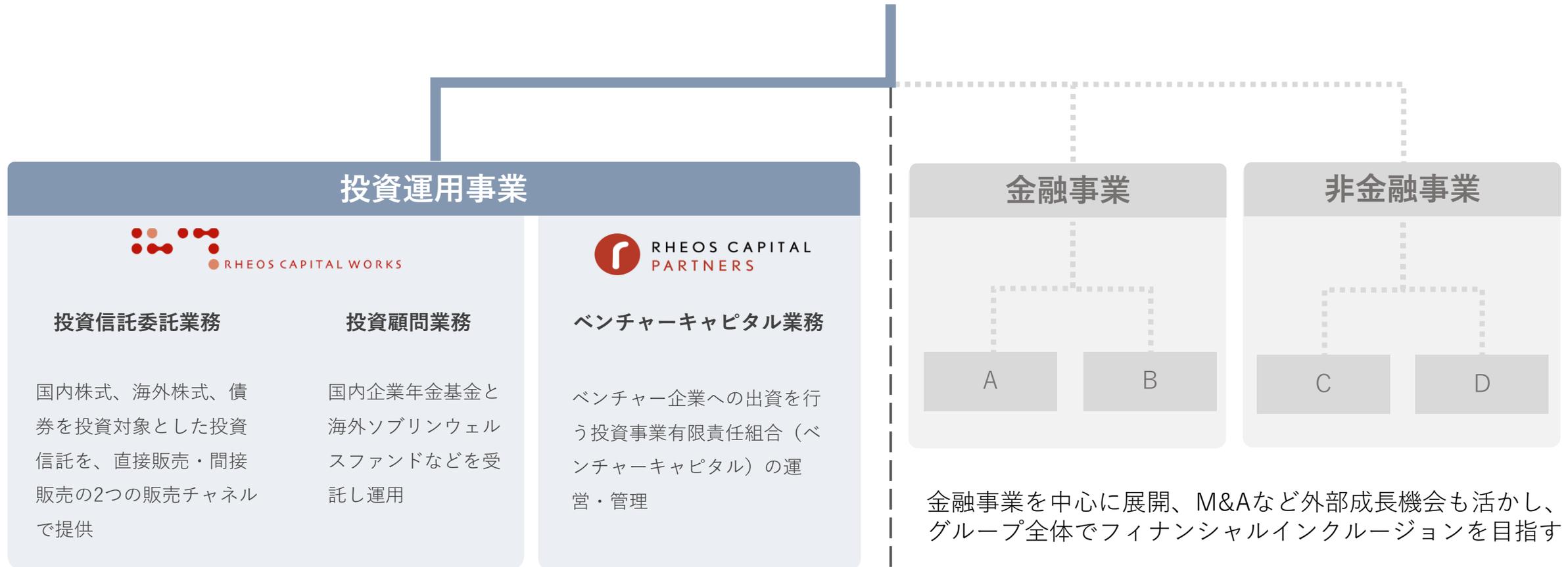
1. 起業して間もない企業に資金を出資する投資家
2. 未上場の新興企業（ベンチャー企業）に出資して株式を取得し、将来的にその企業が株式を上場した際に株式を売却し、大きな値上がり益の獲得を目指す投資会社や投資ファンド

# 目次

- 1 2025年3月期 第1四半期決算レビュー
- 2 「未上場企業から上場企業までをカバーする投資信託」  
～「ひふみクロスオーバーpro」をリリース
- 3** 当社の特徴と成長機会について  
～中期経営計画

# 2024年4月1日に持株会社としてSBIレオスひふみ株式会社設立

- 持株会社の「SBIレオスひふみ」はグループ各社の経営戦略策定・経営管理を行ないます。
- 投資会社としての「**目利きのチカラ**」を活かして新たな事業領域に展開し「**世界をカラフル**」にすることを目指します！



※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご確認ください。

# 中期経営計画～投資運用事業（レオス・キャピタルワークス）

- 「ひふみシリーズ」を強化することで運用資産残高の年平均成長率を15%に維持し業績の拡大を目指します。

## パフォーマンスの向上

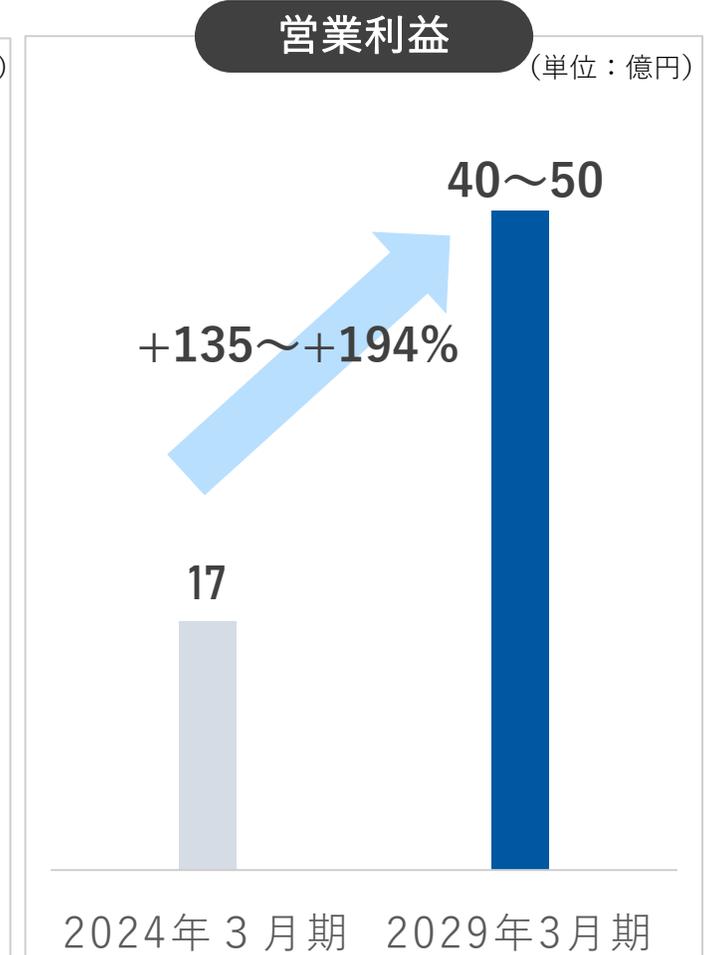
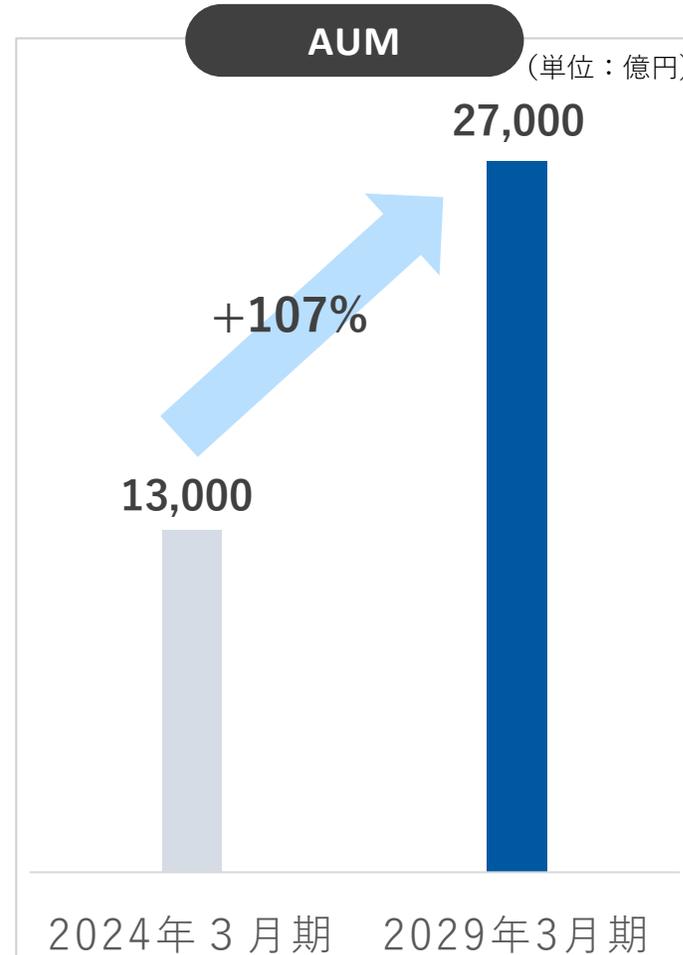
- ・ 運用チームの拡充・海外リサーチ拠点の整備等

## 新商品・新サービスの導入

- ・ 投資先・お客様・投資手法の3つの多様化を目指し2024年に「ひふみマイクロスコープpro」、「ひふみクロスオーバーpro」を投入、以降も新商品を順次投入予定

## 認知拡大によるお客様の獲得

- ・ YouTubeチャンネル「お金のまなびば！」による投資啓蒙活動の継続と積み立て設定金額の拡大を図る
- ・ 既存顧客を対象とする各種イベントによりリテンション（=LTV）を高め、投資初心者向けセミナーや商品セミナーにより間口（=TAM）を広げる
- ・ またそのための新たな広告宣伝施策を今後実施予定



前期の業績実及び29年3月期の業績予想数値はレオス・キャピタルワークスの数値を記載しております。

※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご確認ください。

# 私たちの目指す世界

売上の拡大

多様な資産形成体験の拡充

直販サービスのUI改善

お金のまなびば！  
コンテンツ充実

当社の企業価値の持続的な成長

金融教育  
ビジネス

未上場投資の  
民主化

M&A

ビジネス機会の拡大

 **SBI** レオスひふみ

# 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 本資料は、SBIレオスひふみ株式会社（以下「当社グループ」といいます）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社グループの発行する株式その他の有価証券の勧誘を構成するものではありません。
- 本資料は、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社グループとして、その達成を約束するものではありません。また、過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。
- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化やお客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。なお、本資料に記載されている当社グループ以外の企業等に関する情報は、公開情報または第三者が作成したデータ等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社グループは何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。
- 本資料は目的によらず、当社グループの許可なしに複製・複写をすることを禁じます。
- 「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。
- 各種マーケットデータについて
  - TOPIXの指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社J P X 総研または株式会社J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
  - MSCI ACWIは、MSCI Inc.が開発した、世界の先進国、新興国の株式を対象として算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
  - S&P500は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社が米国の代表的な500社を選出し算出・公表する指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社に帰属します。